

人間社会と自然環境の関係性を問い直す

Keywords : 科学技術と社会、公衆衛生、住まい、フーコー研究

■研究概要

住まいや衛生、病をテーマに、社会と自然環境の関係性について理論的・歴史的に研究しています。人間の生命や健康を成り立たせているのは、人間や社会だけではありません。人間以外の要素（たとえば、病原菌や医療技術、道具、空気、住まい、都市インフラなど）にまで視野を広げてみる必要があります。これまでの社会学の常識から少し外れて、人間と人間以外の要素との関係から生命や健康について問い直してみたいと考えています。

■略歴

滋賀県生まれ。専門は歴史社会学・科学技術社会論。博士(文学／京都大学)。日本学術振興会特別研究員DC2、同PD、神戸松蔭女子学院大学文学部准教授を経て、2025年より近畿大学総合社会学部に着任。

■研究テーマ

1. 感染症と暮らしに関する歴史研究

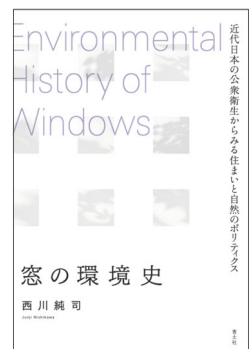
戦前から戦後にかけて、結核は「国民病」とも言われる身近で現実的な脅威でした。医師や公衆衛生の専門家の助言のもと、結核病者は病院や療養所、自宅において、日常生活を送りながら治療や療養を続けていました。そのなかで、身体の機能が（一時的に）損なわれた状態にある病者が他者や道具、自然環境の助けを借りることも少なくありませんでした。たとえば、戦前は新鮮な空気や日光が天然の薬あるいはワクチンとされていたので、換気や採光に適した窓が不可欠でした。安静療法のための静臥椅子も療養の助けとなりました。さらには療養や健康に配慮した住まいづくりがなされることもありました。

治療や療養のなかで、ときに病者と看護する家族とのあいだで衝突が生じたり、家庭で衛生環境

を保つ役割にジェンダーの偏りがみられたりもしました。こうした側面にも目を向けることで、結核病者の暮らしをできる限り立体的に描くように心がけています。

当時の書籍や雑誌を渉猟し、ときに現存する施設へのフィールドワークをしながら、結核の治療や療養における試行錯誤の歴史を記述、分析してきました。対象としてきた営みは日常的で些末なようですが、感染症とともに暮らすことの本質を表しているように思います。

戦前日本を対象にした研究の成果は、2022 年に出版した『窓の環境史』という本にまとめました。



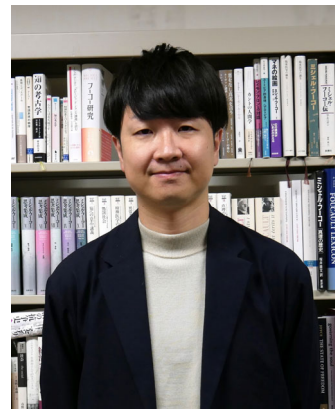
社会・マスメディア系専攻

准教授

にしかわじゅんじ

西川純司

nishikawa.j@socio.kindai.ac.jp



<https://researchmap.jp/junjin>

2. ガラスの受容に関する歴史研究

修士論文以来の研究で、近代日本においてガラスという科学技術がどのように受容されてきたのかを調査してきました。住宅の窓ガラスだけでなく、たとえば百貨店のショーウィンドウも扱ってきました。ショーウィンドウは大量生産・大量消費に奉仕する資本主義の広告メディアとして理解されてきましたが、ガラスという物質を蝶番としてみることで、消費文化の視点からではなく自然環境や政治の視点から捉え直すことができることを示しました。戦前の社会で消費者の欲望をかき立てていたショーウィンドウは、地表の砂を浚い、地中深くの石炭を採掘し、土壌や河川を犠牲にすることや、植民地の資源や労働力を収奪することによって成り立っていました。

3. 人とモノの社会学に関する理論研究

気候変動やエコロジー、感染症、人間以外の種との共生など、現代社会における諸問題は人間社会と自然環境との関係性を根本から問い直す必要を示しています。

そこで、モノや自然、他種など人間以外の要素について社会学でどのように扱うことができるのかを理論的に考えています。これまでの社会学理論の歴史を辿り直すとともに、ミシェル・フーコーの議論や、その議論を発展させた統治性研究、アクターネットワーク理論を中心に研究しています。また、この主題は科学技術社会論や文化人類学において活発に議論がなされていますので、これらの知見も貪欲に取り入れながら研究を進めています。

■論文・作品・表彰・特許等

1. 西川純司, 2019, 「アクターネットワークとしての住宅——昭和初期における健康住宅の事例から」『ソシオロジ』64(2): 57-73.
2. 西川純司, 2022, 『窓の環境史——近代日本の公衆衛生からみる住まいと自然のポリティクス』青土社, 単著.
3. 西川純司, 2022, 「自然のなかのショーウィンドウ——ガラスからみるメディア史」『Fashion Talks...』14: 4-11.
4. 西川純司, 2023, 「国立結核療養所における医療実践——1940～50年代における自然療法を中心に」『保健医療社会学論集』34(1): 12-24.
5. 西川純司, 2025, 『〈病と戦後〉の歴史社会学——疾病と公害をめぐる神話を解体する』青弓社, 共著.

■趣味

歴史探訪が趣味で、神社仏閣や旧跡、地形を古地図を片手に巡ることを楽しんでいます。あまり人が訪れないようなひっそりとしたところの方が、じっくりと歴史に浸れるので好きです。また、海外旅行から得られる経験も大事にしてきました。これまでに訪れた国や都市のなかでもとくにギリシャのアテネは、この仕事をしていることもあって、たいへん魅力的でした。

■ゼミの宣伝等

ゼミでは、社会学というものの考え方がもつ可能性と限界について考えます。既存の社会的な見方を学ぶことで、私たちが生きるこの社会を見通すための力を養います。他方で、今までの社会学ではあまり目が向けられてこなかった気候変動やエコロジー、感染症などのテーマも積極的にみていくことで、社会学になにができるのか／できないのかについて手探りで考えていけたらと思います。